

# 当会派は「人への投資」を充実させた予算修正案を提出

私たちは、住民合意が得られていないデザイン重視の事業や区民のメリットが小さい事業ではなく、人への投資、区民生活の向上への投資を充実させる予算案を提出しました。

**子育て・教育+13.1億円** 増額

- 卵子・精子凍結助成
- ハッピーマザー助成金
- 保育園ベビーセンサー
- 保育士の確保支援
- 小中私立校等の給食費無償化
- 中学校のALTを増員
- 大学・短大等の給付型奨学金創設

5事業で34億1214万円を減額し、37事業で30億864万円を増額する提案です。

**防災+12.5億円** 増額

- 全世帯へ災害用携帯トイレ配布
- 避難所にペット用品・液体ミルクを使い捨て下着を配備
- 建物の耐震性促進補助

**福祉+4.2億円** 増額

- 75歳以上への敬老金復活
- 終活支援サービス
- 日中一時支援の土日開設
- 介護施設のロボット導入
- 障害者施設のIT活用支援

**保健 +2千万円** 増額

- 区施設に生理用品設置
- おたふくワクチン接種2回目無料
- 5歳児検診の実施

**産業+5百万円** 増額

- 商店街の街路灯助成

住民合意がないまま一方的に進められている  
**玉川上水旧水路緑道再整備-30.2億円**  
中長期目標が設定されず事業効果が見られない  
**グローバル拠点都市推進事業 -1.7億円**  
目的と手段が一致せず、事業の進め方が不透明な  
**シブヤ・アロープロジェクト -4千万円**

立憲・国民渋谷議員団の  
予算修正案 概要



## 小田浩美プロフィール

1965年生まれ 宮城県女川町出身 おとめ座 巳年  
家族:夫・娘・息子 渋谷区東二丁目に住38年  
好きなこと: 料理、野球観戦、パワースポット巡り  
尊敬する人:両親 マハトマ・ガンジー 宮城学院中高の恩師

1987年 東二丁目で子育てスタート  
働くママの子育てがスタート。ママ友やご近所さんは強い味方でした。

1999年 渋谷清掃工場建設問題で市民活動に参加  
これが、その後政治に関わるきっかけとなりました。

2005年 衆議院議員馬淵澄夫 第46代国土交通大臣 公設秘書

2011年 東日本大震災発生  
女川町の実家も 会社もすべて流され、親戚や友人が命をなくしました。馬淵澄夫議員が震災と原発事故担当の総理大臣補佐官となり、休日も昼夜もない日々でした。

2014年 衆議院民主党秘書会事務局長

2016年 衆議院民進党秘書会会長

2016年 衆議院秘書協議会副会長

2017年 衆議院議員中谷一馬政策担当秘書

立憲民主党初代秘書会会長

できたばかりの立憲民主党を、みんなで育てていこうと奮闘しました。

2019年 渋谷区議会議員選挙で初当選

国会議員を支えてきた経験を、今度は地域の皆さんを支える側として活かしていきたいと立候補。

2023年 渋谷区議会選挙2期目の当選

立憲・国民渋谷議員団幹事長

議会運営委員会副委員長

総務委員会

官民連携事業調査特別委員会

渋谷区消防団運営委員会

渋谷消防団第二分団所属

防災士 日本秘書クラブ会員

立憲・國民渋谷議員団幹事長

議会運営委員会副委員長

総務委員会



## 教育の成長支援

新しい学校整備計画の見直しはどのような場合に行われるのか。建て替えロードマップの変更可能性は。計画への意見聴取を改めて行う予定はあるか。

➡区長／変化を見極め、必要に応じて見直す。見直す場合は迅速に周知し意見伺う。

小中一貫校への統合は地域住民、区民と協議を。

➡区長／メリットや課題、対応策を説明し議論深める。

戦後80年の今、発達段階に即した平和学習への取り組みを。

➡教育長／新たな平和学習プログラムの創出を促す。

日本国籍を持つインターナショナルスクール生の区立校への短期受け入れ方針は。

➡教育長／学校と協議し検討する。



## 安心・安全対策

「ながら見守り活動」協定締結と、「防犯計画やガイドライン」の策定を。

➡区長／ながら見守りは既に郵便局、信金と締結。新たな防犯計画等作成する考えない。

防災キャラバンの実施は、自主防災組織の関わり方を明確に。イベント的要素と実践的な訓練のすみ分けを。

➡区長／地域の望む形で訓練を行えるよう取り組んでいる。

## 産業振興

地域通貨ハチペイでの生活支援キャンペーンは産業振興事業と切り離して、区民に行き届く生活支援対策を改めて検討するべき。

➡区長／着実に利用者、加盟店増加している。サポート体制、環境整備に努め、生活支援にも取り組む。



## 都市基盤整備とまちづくり

## 玉川上水旧水路緑道再整備

緑道舗装材はすべてインターロッキングにし、価格を抑えデザインの統一を。

➡区長／ランドマークとなるデザインを採用。エリアの価値向上、シティプライドの醸成に寄与すると考えるため、舗装材の見直しを行う考えはない。

テラゾ材が破損している説明を。耐久性試験のやり直しが必要ではないか。

➡区長／施工の過程で生じた。設計基準強度を満たしている。一部欠損は施工の過程で生じたもの。試験のやり直しや素材の見直しを行う考えはない。



高木の根の配慮エリアを手掘りではなく重機で掘削していることへの説明を。

➡区長／重機と手元指示の2人体制で根の状況を確認しながら行っている。



低木が根こそぎ撤去された。区長発言の「今ある自然を活かす」と矛盾するもの。

➡区長／運行の支障や見通しの阻害を解消するため。移植できるものは他の公園に。



反対署名が3027筆となっている。住民と合意形成のもと計画を見直すべき。

➡区長／ササハタハツ会議などで声を反映。意見伺い進める。

## 渋谷川の再整備

渋谷川護岸の再設計、再整備を行ない、都市の中に豊かな自然の水辺と、匂いや見た目の課題解決に取り組むべき。

➡区長／再整備は既に完了している。



稲荷橋付近予想図

溶岩石を利用した護岸整備

## 渋谷駅東口駅前広場整備

渋谷駅東口駅前広場の整備は、行政と事業者だけではなく、利用者、区民の意向調査を。

➡区長／大山街道と一緒にオーケブルな歩行空間を整備。利便性に配慮し進めている。



## 環境と衛生

使用済み紙おむつの回収と再資源化事業を始めるべき。

➡区長／再資源化に向けた情報収集に努める。

路上に散乱する事業系ごみの集積ルールを定めて条例改定し強い指導を。

➡区長／不適切な排出には改善指導を行っている。

各駅周辺や公道にごみ箱の設置を。

➡区長／ごみは持ち帰ることが原則。販売して生じたごみは小売店が責任を。次年度ごみ排出調査を行う。

アロープロジェクトの内容を変えず、事業目的を変更した理由は。

➡区長／事業目的変わっていない。落書き消去とアートを一体的に進める。



## 健康と福祉

国の補助同様に検診料2分の1を補助して、早急に5歳児検診を開始するべき。

➡区長／検討を開始した。

老後おひとり様、高齢者支援のため、看取りや終末期にかかる支援制度を設け、助成金制度など創設し負担軽減を。

➡区長／事例を参考にしながら研究する。相談、支援に関する対応を進める。



## 区政運営

ハラスマント防止対策委員会の構成は、各階級年代、男女比率を同等に。

➡区長／管理職以外の職員も、男女比も均等になるよう構成する。

公益通報窓口の設置予定は。

➡区長／新年度開設の準備進めている。

給付金事業の事務経費が他区と比べて高い原因是。事務経費削減の対策を講じる考えは。国が導入を進める給付支援サービスの活用は。

➡区長／内容、事業スキームが区によって異なるため。今後の運営は適切に対応。国のサービスは導入に期間要すため現時点では考えはない。

デジタル化標準準拠システムへの移行が遅れている原因は。サイバーセキュリティー基本方針策定に専門家を入れた対策プロジェクトを。

➡区長／一斉に実施することになり全国的に遅延している。運用体制検討し必要に応じた対策講じる。

自治法改正による公共私連携制度には議論が必要。区の方向性と見解を。

➡区長／本区は様々な団体が連携、協働して活動している。現時点で導入する考えはない。

## 令和7年度予算の問題点

## スマートシティ推進事業

2億円以上が、一般社団法人シブヤ・スマートシティ推進機構の委託費や補助金として支出されます。しかし、ホームページもほとんど更新されてなく、活動内容の説明責任を果たしていない。区民や地域の中小企業にとって価値のある形で還元されている形跡が見えず、**公共性や透明性、区民への実利も担保されていません**。

## グローバル拠点都市推進事業

1億7945万円のうち、スタートアップ支援拠点へ1億4000万円を計上。この5年で採択され実装できた事業は約60件ですが、区民への直接的メリットが見られるものが多く、行政がベンチャーキャピタルのような役割を担うことは馴染みません。**区民への恩恵が薄く、費用対効果が不透明な事業は早急に見直すべきです。**



## 公園整備事業

総額113億円の高額な支出を行う予定の「玉川上水旧水路緑道再整備」は、妥当性と住民意見との乖離が深刻な問題です。令和7年度は33億円余の支出で、その使途は、テラゾ舗装材1m<sup>2</sup>あたり16万3000円で一般的な舗装材の10倍。ベンチは、テラゾ材50基で1億8500万(1基約370万円)、杉の木製26基1億1100万円(1基約425万円)も相場の10倍です。その他にも多々問題が指摘されています。区は、住民の声に真摯に耳を傾け、**区民と地域に喜ばれる再整備計画へと見直すべきです**。

世界的なデザイナーが設計したから、意匠性が高い！テラゾ材がおしゃれ！なんて理由じゃ納得ができません！

## 高齢福祉費

敬老金制度の改定後、高齢者の見守り機能の低下が見受けられます。令和7年度は前年度比で**約3500万円の減**。高齢者実態調査の対象者数も2万4000人から1万6000人に減少し、うち約7400人が未把握調査の対象者数です。見守り関連の予算減や調査対象者の減少で区内全体の見守り機能が低下しています。**高齢者支援にはしっかりと予算をつけるべきです。**



## 区民施設管理費

ふれあい植物センター運営費1億6800万円の内訳は、指定管理用5,500万円、飲食・物販で約7,000万円、農園ハウス運営費約2,600万6,000円です。しかし、飲食・物販で見込まれる歳入は3,960万円と収益性は低く、**税金を投入して行う合理性に問題があります**。開園時間を3時間延長する改正が行われアルコールの提供も始まりました。本来この施設は、清掃工場建設による地域還元の施設ですが、実態は還元エリアの住民利用率は低く、思いが置き去りになっています。



ふれあい植物センターにもっと多様な動植物の展示を増やして欲しい。今は珍しい植物がなくなり見応えがなく、成長観察などができるない。施設内のスペースを地域住民に貸してほしい。子ども食堂をやってほしい。図書館がなくなった分、勉強スペースなどを作って中高生を支援してほしい。



区は本来の目的、原点に返りもっと地域住民の声を聞くべきです。また税金で運営される農園ハウスのトマト販売を、ふれあい植物センターの飲食と物販販売に混同することは経常利益が分かりにくくなるため止めるべきです。